



小山 高正 議員



教育について

問 ①市内における経済的支援が必要な児童生徒数と給食費が実質無料になっている世帯数の内訳を伺う。②夏休み期間中の昼食費補助事業（2万円程度）の創設を求める。③事業を中止した古河塾への所見と反省点を伺う。④教育格差是正のため、経済的支援の必要な家庭への塾費用助成、もしくはeライブラリーとの併用目的で、安価な動画配信アプリの費用助成を求め

るが所見を伺う。⑤インターネットを利用した、いじめと学習用端末のID・パスワード管理の現状と対策について伺う。

答（教育部長） ①就学援助世帯は12月1日現在、590世帯886人。学校給食費の家庭負担は無く、独り親世帯等も無料である。②国、県の支援の状況を見極め対応したい。③基礎的な知識等が不十分な児童生徒への補充学習支援を目的としていた。反省点は、学習サポーターの質の維持や自主学習による知識の習得が困難だったことである。④塾費用の助成は検討していない。eライブラリーと併用するアプリ等の導入は、必要性について情報収集に努めたい。⑤ライン等に誹謗中傷の書き込みがある。

覚えやすく安全なパスワードを学ばせ、不正ログイン等につながらないようにしている。



市民生活について

問 日本学生支援機構の奨学金代理返還制度に市独自の助成を行ったらどうか。

答（産業部長） 支援事業の創設を含め、他自治体を参考に、企業が制度を利用しやすい環境を作るため、市ができることを検討したい。



古川 一美 議員



飼い主のいない猫の問題について

問 野良猫の苦情を多く聞く。ボランティア団体が中心で対応しているが経済的負担は大きい。市では飼い猫への対策は講じているが①野良猫の自然繁殖を防ぐため、飼い主のいない猫の不妊去勢手術の補助の考えはあるか。②ボランティア団体の啓発活動への補助はあるが、手術費が適用されない理由は何か。

い猫に対する不妊去勢手術の補助については、県に補助制度がある。今後、市においても先進事例を参考に調査研究していきたい。②市の補助制度は、団体の動物愛護に関する啓発活動に重点を置いていることから、医療行為等は対象外としている。

子どもの読書活動推進について

問 デジタル化が進む時代だからこそ、正しさを判断し考える力を身につける子ども時代の読書習慣は一層重要となる。読書離れ活字離れが進む中、小中学生や未就学児に対してどのように読書活動を推進しているのか。

答（教育部長） 読書活動推進のため、各学校の学校司書教諭と

学校図書支援員が協力し、読書イベントや読み聞かせ、図書だよりの発行など、読書率向上に向けた取り組みを積極的に行っている。未就学児への取り組みについては、ブックスタートとして、絵本をプレゼントしている。また、図書館では、保育所等で読み聞かせを行う大型絵本の貸し出しや図書館まつりの開催など、子どもたちが本に触れ合う機会を増やす取り組みを行っている。

